

2018 スキー鳥取発刊に寄せて

鳥取県スキー連盟

会長 内田 博長



北の大地北海道では、10月には例年以上の降雪を見ました。いよいよスキーシーズン本番に入ります。会員の皆様には、日頃より本連盟の事業・スキー界の活動にご尽力いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

今シーズンは、西日本ブロック協議会が、新体制のもと稼働する1年目となりました。全日本への執行役員をはじめ新ブロック内の役員体制・事業展開等、細かな調整は残るものの、新たなスタートを迎えることになりました。来る2月にはおとなり韓国で冬季オリンピックが開催されます。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピック、そして、2022年には中国で冬季オリンピックが開催されます。オリンピックがアジアでの連続開催となり、スキー熱も一層上がることと思います。全日本スキー連盟では、国民の皆さんのスキー熱を上げることもねらいのひとつとして、アルペン部で、全日本選手権を12月に開催してオリンピックの選手選考にし、選手選考の透明化を図る。また、男女SL競技をテレビ中継するなどの予定がなされています。スキー人口の減少などの課題があるなか、このような大きなイベントも追い風に、スキー界のより一層の発展に向けて、会員の皆様には今後とも多大なるご理解とご協力をお願いいたします。

さて、先シーズンは、2年続きのシーズン初めの積雪不足でスタートしましたが、1月中旬からの降雪により各事業が予定通りに実施されました。教育部では、ジュニア教室の全日程実施をはじめ、技術選手権を目指す選手の育成やスキーの普及に努力してまいりました。西日本技術選手権では、10年ぶりに10位入賞者を出しました。競技部では、全国大会での入賞には一歩及びみせんでしたが、アルペン・クロスとも選手強化をはじめ次世代選手の育成・発掘に努力し、継続した育成に取り組んできています。また、教育部・競技部ともスノーボード分野では、それぞれの活動が軌道に乗り始め、今後の発展が期待されるところです。

本連盟では、よりいっそうのスキー界の発展を目指して、今シーズンの各事業・行事の準備を進め、スキー人口の増加をはじめ、例年以上の成果が出せるよう役員一丸となって努力しているところです。連盟と会員の皆様、スキー愛好者、スキー場の皆様、関係の皆様と手を取り合い、さらなる発展を目指したいと思っております。今後とも皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、日頃より本連盟に多大なるお力添えをいただいております鳥取県体育協会の皆様、県内各スキー場の皆様、関係の皆様に厚くお礼申し上げます、また、変わらぬご理解とご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。